



にじ

高知医療センター各局による
(看護局・薬剤局・医療技術局・栄養局・事務局)
クオリティ・インディケーター(QI)
/ クリニカル・インディケーター(CI)
2014 P2~5

NICU の新たな取り組み
ファミリーセンタードケアのご紹介 P6

■ 地域医療連携病院のご紹介Vol.80

【医療法人 敬善会 前田メディカルクリニック】 P7

■ 高知医療センター・イベント情報 P8

11

NOVEMBER 2014 Vol.109



10/11・12 城西公園にて開催されたがんと向き合うチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」に、当院職員が参加しました。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

クオリティ・インディケーター (QI) / クリニカル・インディケーター (CI)

薬剤局における『医療の質向上への取り組み』 薬剤局長 服部 暁昌

薬剤局では、安全で適正な薬物治療を支援するために、薬剤師の病棟常駐、がん化学療法の安全管理、抗菌薬の適正使用や専門的医療チームへの積極的な参加など、様々な取り組みを行っています。同時にそれらの取り組みの一部については、客観的に評価する指標（クリニカルインディケーター）を設定し、薬剤局の業務の達成状況を確認しています。

表に平成 25 年度までの薬剤局のクリニカルインディケーターを示しました。指標番号 1、2 の薬剤管理指導は、件数と実施率を指標として病棟で薬剤師の関わりがどの程度行えているかを評価したものであり、これにより入院患者さんに対する薬物療法の支援状況を確認しています。一昨年より新設された病棟薬剤業務実施加算は、現在も薬剤師のマンパワー不足のため、1 病棟 1 薬剤師を配置できず実施に至っていません。病棟薬剤業務は、医師等の負担軽減、薬物療法の有効性、安全性の向上に資する薬剤業務として位置付けられ、持参薬や処方の確認、医薬品情報の提供、管理、他の医療スタッフとの連携等により薬物療法を事前にチェックする「投薬前の患者に対する業務」とし、最終的には投薬計画を提案することを主体としています。薬剤局で実施している薬剤管理指導業務は、「投与後の患者に対する業務」も合わせてこの病棟薬剤業務も包括して行っており、実施率が 100% になれば病棟薬剤業務実施も可能となると考えています。平成 25 年度は職員の補充ができず、薬剤管理指導の実施件数がやや減少しましたが、実施率は 72% と過去最高の数字となっています。しかし、すべての入院患者さんに対して実施できておらず、薬剤師職員の確保が重要な課題となっています。薬剤管理指導業務の実施時には、医師、看護師などの病棟スタッフや患者さんからの相談を受けたり、医薬品情報を提供することが数多くあります。今回より、指標番号

3 と 4 を新たに設け、病棟でいかに薬剤師の業務が定着しているかを確認する指標としました。病棟スタッフからの相談、情報提供は、年間 6,288 件、平日 1 日当たり約 25.8 件（平日 244 日）でした。患者さんからの相談は、年間 2,128 件、平日 1 日当たり約 8.7 件、病棟スタッフからのものを合わせると 1 日当たり約 34.5 件で、病棟薬剤師 1 人当たり（7 人）では、指導業務以外に約 5 件の相談応需と情報提供を行っていました。

昨年度示しました、抗がん剤の薬剤師による無菌調製は、昨年度の 12 月よりすべて薬剤局にて薬剤師が行うこととしたことから、今回は表より除くことと致しました。

抗 MRSA 薬は、TDM (Therapeutic Drug Monitoring) による治療効果と副作用の発現についてエビデンスがほぼ確立されおり、抗 MRSA 薬の適正使用を推進する上で、TDM の実施は病棟薬剤師の重要な業務の一つです。TDM 実施率は、主に入院患者さんの MRSA 感染等に使用された注射用抗 MRSA 薬（バンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシン）の血中濃度測定により薬剤師が直接投与設計を行った割合を示したものです。平成 25 年度の実施率は、79.8% と昨年度とほぼ同じであり、今後も医師への啓発を含め、実施率 100% を目指してすべての入院患者さんに抗 MRSA 薬の TDM による支援を行っていく必要があると考えています。

薬剤局では薬剤師の専門知識、スキルを高めるために、様々な研修や学会活動に積極的に参加しています。指標の 6 番目に薬剤局の各種資格取得者数を挙げましたが、平成 25 年度は、新規取得者、継続者はなく前年度と変わりませんでした。今後も質の高い薬物療法を提供していくために、新規取得者の拡大や継続を支援していきたいと考えています。

薬剤局「薬学的管理の質」インディケーター-2013

指標番号	指標名称	H23	H24	H25	算出単位	分子 / 分母および備考						
薬剤 1	薬剤管理指導実施件数 (件)	17,303	16,374	15,599	年度	分子：— 分母：— 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標。						
薬剤 2	薬剤管理指導実施率 (%)	67.1	61.1	72.0	年度	分子：実施患者数 分母：全入院患者数 備考：入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標。						
薬剤 3	病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数 (件)	—	—	6,288	年度	分子：病棟での医師、看護師等からの医薬品に関する相談と情報提供件数 (件) 分母：— 備考：入院患者の薬物治療に関する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤 4	入院患者からの相談件数 (件)	—	—	2,128	年度	分子：入院患者からの相談件数 (件) 分母：— 備考：入院患者の薬物治療に関する薬剤師の貢献度としての指標						
薬剤 5	抗 MRSA 薬の治療薬物モニタリング (TDM) 実施率 (%)	79.9	80	79.8	年度	分子：抗 MRSA 薬血中濃度測定患者数 分母：抗 MRSA 薬投与患者数 備考：抗 MRSA 薬の適正使用に関する指標						
薬剤 6	薬剤局に関連する各種認定資格取得者率 (%)	0.67	0.71	0.68	年度	分子：薬剤局に関連する各種認定資格取得者数 (詳細は下記) 分母：薬剤局所属の全職員数 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する。(H23年度は 16/24 人、H24年度は 17/24 人、H25年度は 17/25 人)						
	各種資格取得人数内訳			H23	H24	H25	各種資格取得人数内訳			H23	H24	H25
	日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師			5	5	5	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師			1	2	2
	日本病院薬剤師会認定指導薬剤師			3	3	3	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師			2	2	2
	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師			2	2	2	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師			2	2	2
日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師			1	1	1							

看護局における『医療の質向上への取り組み』 看護局 寺岡 美千代

看護局では、2008年より「看護の質評価指標」を規定し、改善目標として取り組みを進めてきました。2012年度からは看護局内に「看護の質評価委員会」を設置し、指標の洗練化と規定した指標データを「改善目標としてのデータ」と位置付け、PDCAサイクルを実践するための根拠として、データ収集と分析結果のフィードバックを行っています。

また、「看護の質指標を用いたデータベースによるベンチマークシステムの試行調査事業」にも2012年度から参加し、データ収集と分析、ベンチマーク、部署へのフィードバックを行い看護ケアの質向上に取り組んできました。

本年度は、各部署の特徴的な看護ケアを質評価指標にするために、部署ごとのアクションプランの目標を質評価指標となり得るよう目標設定して取り組んでいます。

当センターの看護ケアの質については、本年度からは「看護ケアの質委員会」が中心となり、規定した指標の洗練化とデータ分析、国内外の看護の質向上に関する取り組みや動向をモニタリングしています。

今年度も6つの指標データ(2013年度)を報告させていただきます。これらの指標は①以外数値目標は設定しておりません。①「各種資格取得人数」は、一定の専門性が証明された資格を有する者を資格取得者として報告しました。特に専門看護師と認定看護師については27年度末までに専門看護師7分野12人、認定看護師10分野16人の養成を数値目標にあげて計画的に育成しています。②「経験年数5年以上の看護師の占める割合」については、一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとしての臨床実践能力を備えていると言われており、5年以上の看護師の占める割合が当院の看護の質を反映すると考えています。③「男性看護師割合」は7.5%で全国平均の

6.2%(平成24年度厚生労働省衛生報告例)を上回る割合であり、急性期医療を担う当院で看護の専門職性を向上させるための取り組みを推進するものと考えています。④「新卒新人看護師3年定着率」は、臨床看護師研修制度の充実が新人看護師の自信と意欲を向上させ、病院全体で新人看護師を育てていることの証であると考えており、限りなく100%を目標にしたいところですが、看護師のライフイベントを考えると100%の目標達成は現実的ではないと考えています。⑤「多職種カンファレンス件数」は、チーム医療の実施状況を示し、⑥「デスクカンファレンス実施率」は、家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す、との考えに基づき取り組んできました。多職種カンファレンスは、チーム医療を推進していくため今後も増加すると考えられます。また、多職種カンファレンスやデスクカンファレンスは、実施割合よりも、実施することでどのような効果が得られているかを確認し、取り組みの方向性を検討したいと考えています。

新たな動向として、日本看護協会は労働と看護の質向上のためのデータベース事業「DiNQL(Database for improvement of Nursing Quality and Labor ディンクル)」を、2014年度よりスタートしています。看護局でも、本事業への参加について検討し、本年度の参加は見送っております。

今後は、2014年度末に各部署の目標の成果を確認し、部署の取り組み Process や Outcome を質評価指標にするか否かの検討と、「〇〇ケア基準」として院内共通のケア基準に昇華していきたいと考えています。

そして、「〇〇ケア基準」を作成することでケアの標準化をはかり、施設内で同一ケアを部署間比較(ベンチマーク)することで、看護ケアの質を向上させていきたいと考えています。

看護局「看護の質」インディケーター-2013

指標番号	指標名称	H23	H24	H25	算出単位	分子 / 分母および備考		
看護 1	各種専門領域認定資格取得者率(%)	0.20	0.15	0.16	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記)分母：看護局所属の全職員数 備考：特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する。(H23年度は118/602人、H24年度は97/655人、H25年度は111/681人)		
	主な各種資格取得人数内訳		H23	H24	H25	主な各種資格取得人数内訳		
	がん看護専門看護師	2	2	2	IVR看護師	9	9	9
	小児看護専門看護師	1	1	1	呼吸療法士	13	14	14
	老人看護専門看護師	1	1	1	消化器内視鏡技師	12	10	11
	母性看護専門看護師	-	1	1	リンパ浮腫指導技能者	3	2	2
	皮膚排泄ケア認定看護師	1	3	3	心臓リハビリテーション指導士	6	6	6
	感染管理認定看護師	1	2	2	日本癌治療学会認定データマネージャー	5	4	4
	集中ケア認定看護師	2	2	2	栄養サポートチーム専門療養士	2	7	7
	救急看護認定看護師	3	3	3	高知県臓器移植院内コーディネーター	3	1	4
	不妊看護認定看護師	2	1	1	日本褥瘡学会認定師	-	1	1
	新生児集中ケア認定看護師	-	1	1	日本口腔ケア学会4級認定者	-	2	2
	脳卒中リハビリテーション認定看護師	-	1	1	I C L S インストラクター	-	8	8
	小児救急看護認定看護師	-	-	1	J P T E C インストラクター	-	1	2
	慢性呼吸不全看護認定看護師	-	-	1	A H A B L S インストラクター	-	-	2
	日本看護協会認定看護管理者	3	4	4	高知県看護協会災害支援ナース	-	-	2
	第一種衛生管理者	-	-	2	新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	-	-	2
医療安全管理者認定	-	-	2	プラクティカルCTG判読スペシャリスト	-	2	3	
日本糖尿病療養指導士	5	4	4	アロマセラピー検定1級	-	1	1	
看護 2	経験年数5年以上の看護師の締める割合(%)	69.3	71.7	73.2	年度	分子：経験年数5年以上の正規看護師数 分母：看護師(正規職員)数 備考：一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている。		
看護 3	男性看護師割合(%)	7.2	6.6	7.5	年度	分子：正規男性看護師数 分母：看護師(正規職員)数 備考：男性看護師と女性看護師の考え方(視点)や、性差は看護の質に影響する。		
看護 4	新卒新人看護師3年定着率(%)	78.6	86.4	79.5	年度	分子：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数(4月1日を起点とする) 分母：3年前の4月1日採用の新卒新人看護師数 備考：臨床経験3年目は、クリニカルラダーレベルⅡに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる。		
看護 5	(部署別)多職種カンファレンス件数(件)	1,024	1,577	1,846	年度	分子：実施件数 分母：- 備考：チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する。		
看護 6	デスクカンファレンス実施率(%)	6.3	10.8	9.6	年度	分子：デスクカンファレンス件数 分母：死亡退院患者数 備考：家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す。		

医療技術局における『医療の質向上への取り組み』 医療技術局長 西川 智彦

医療技術局は、7 職種の医療技術職員（臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、言語聴覚士、視能訓練士）が自らの技術に誇りを持ち、検査や治療など専門技術で医療の一翼を担うと共に、医療安全、医療サービス等の質向上に向けて努力しています。

平成 25 年度も、安全とサービス、技術の 3 つに分けて分析いたしました。MRI 検査など金属の持ち込みによる事故を防ぐための研修会や入室訓練、チェックシート活用、ダブルチェックなどを行い、危険を回避し安全で正確で確実な検査が行えるような取り組みや、検査部門においても臨床診断や治療部門との協力体制を確立し情報共有や問題点などの抽出等を図ることにより、検査時間や結果報告時間の短縮など、

安全とサービスにおいて医療の質が向上したと考えられます。

技術の向上への取り組みとしては、技術職員のスキルアップを目指した講演会や研修会への参加の推進を行い、優秀なスタッフ育成に向けた院内での勉強会・カンファレンスに加え学術集会などの参加、また各学会等の参加により各種専門技術の認定資格取得を推進し専門技術向上に取り組んでいます。平成 25 年度は 5 名増え 18 種類 37 名が各種認定資格取得し各専門分野に大きな役割を果たしています。

今後、それぞれの配属部署でこれらの技術の後継者の育成に努め、質の高い医療技術の提供を維持することを目指します。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター2013

指標番号	指標名称	H23	H24	H25	算出単位	分子 / 分母および備考				
医技 1	MRI検査室への持込禁止物によるアクシデント発生率(%)	0.04	0.03	0.00	年度	分子：持込禁止物の持込によるアクシデント発生件数 分母：MRI検査実施件数 備考：MRI検査では持込禁止物を持ち込むことによって、強力磁石による吸着事故、高周波による火傷等の重大事故につながる。MRI検査の安全性を評価する目的で、持込禁止物の持ち込み発生率を指標とした。H25年度の分母は7,871件、分子は0件。				
医技 2	外来検体検査の報告に要した時間(分)	18	12	11.5	年度	分子：ガス、生化学、血糖、CBC、凝固、尿の報告時間の統計 分母：ガス、生化学、血糖、CBC、凝固、尿の件数 備考：報告時間は、検体が検体検査室受付登録から、結果が電子カルテ上に送信されるまでの平均時間。H25年度の項目別報告時間は血液ガス2分、生化学26分、血糖11分、CBC4分、凝固19分、尿7分。				
医技 3	病理迅速検査件数(件)	404	383	387	年度	分子：組織診・細胞診の迅速検査件数 分母：-				
医技 4	医療技術局に関連する各種認定資格取得者率(%)	0.53	0.56	0.61	年度	分子：各種専門領域認定資格取得者数(詳細は下記) 分母：医療技術局所属の全職員数 備考：各分野の専門技術の質向上を目指して。(H23年度は29/55人、H24年度は32/57人、H25年度は37/61人)				
	各種資格取得人数内訳		H23	H24	H25	各種資格取得人数内訳		H23	H24	H25
	細胞検査士	2	2	2	核医学専門技師	2	1	1		
	認定臨床エンブリオロジスト	2	2	2	第一種放射線取扱主任者	1	1	2		
	超音波検査士(血管領域)	2	1	1	放射線治療専門放射線技師	1	1	1		
	超音波検査士(循環器)	3	3	3	放射線治療品質管理士	1	1	1		
	超音波検査士(消化器)	1	1	1	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	4	5	5		
	輸血検査技師	1	2	2	緊急臨床検査師	1	1	1		
	認定HLA検査技術者	1	1	2	救急撮影技師	1	1	1		
	認定心電検査技師	2	4	4	放射線管理士	1	1	1		
心臓リハビリテーション指導士	2	3	4	医療機器情報コミュニケーター(MDIC)	1	1	3			

栄養局における『医療の質向上への取り組み』 栄養局長 渡邊 慶子

栄養局は開院と同時に全国に先駆け、各フロアに管理栄養士を常駐させ、医師、看護師、薬剤師等とチーム医療による臨床栄養管理を実践してきました。栄養管理による治療効果の評価指標は、経腸的栄養補給率、感染症発生率、及び抗菌薬使用の増減、在院日数などが挙げられますが、栄養管理のみの効果によるものではないことから、評価方法の難しさが課題です。しかしながら、治療効果を上げるためには、適切な栄養評価と栄養管理が極めて重要であるとの認識は、医師以外の多職種にも既に浸透していますし、NST(栄養サポートチーム)の活動も定着しており効果も得られています。

■各種認定取得の指標

栄養管理による治療効果への貢献を果たすためには、管理栄養士が専門性の高い知識を習得し、適正な栄養評価と栄養管理を実践する必要があります。その為には常に自己研鑽に努め、スキルアップしなければなりません。栄養局では、管理栄養士の専門領域における認定取得を推進するために、積極的に学会発表や研修会に参加できる環境整備と支援を行っています。その結果、表のとおり、平成 24 年度の認定取得者数 7 名から、平成 25 年度は 12 名と増加しており、確実に質向上につながっていると実感しています。

■栄養指導実施率の指標

管理栄養士が、医師の指示の下に行う栄養指導の実施率を指標としています。管理栄養士は病状や、臨床検査データの推移を専門的な立場で評価し、栄養指導の必要性を医師に提案しています。栄養指導を実施することで、患者さんの治療意欲が高まり治療効果が期待できます。また、退院後の食生活習慣改善等にもつながります。

平成 25 年度はスタッフの産休・育休による影響で、外来栄養指導実施率が平成 23 年度に比較して減少していますが、入院栄養指導は増加しています。

今後は栄養指導の直接的な評価として、糖尿病患者に対する血糖コントロール指標や、入院患者の栄養管理における栄養補給方法の状況についても検討していく予定です。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター-2013

指標番号	指標名称	H23	H24	H25	算出単位	分子 / 分母および備考
栄養 1	治療食加算対象患者に対する栄養指導実施率 (%)	35.0	37.6	39.4	年度	分子：個人・集団栄養指導の実施件数 分母：治療食加算対象患者数 備考：平成 25 年度の分母は 6,183 件、分子は 2,443 件。
	栄養局に関連する各種認定資格取得者率 (%)	0.71	0.78	1.50	年度	分子：各種認定資格取得者数 分母：栄養局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、管理栄養士による栄養管理および栄養治療の質が向上する。(H23 年度は 5/7 人、H24 年度は 7/9 人、H25 年度は 12/8 人)
栄養 2	各種資格取得人数内訳					H23 H24 H25
	糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)					2 3 4
	栄養サポートチーム(NST)専門療法士(日本静脈経腸栄養学会認定)					1 1 2
	TNT-D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)					2 3 3
	日本病態栄養学会認定病態栄養専門師(日本病態栄養学会認定)					- - 1
	日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士(日本病態栄養学会認定)					- - 1
	医療安全管理者(日本病院会認定)					- - 1

事務局における『医療の質向上への取り組み』

事務局長 松井 成起

事務局では、「病院経営の効率化に努め、良質な医療の提供ができる医療環境の実現を目指す」を基本方針に、病院の医療活動を円滑に行うために必要な、さまざまな業務を担っております。

管理運営や調整業務を行う行政職、診療情報管理士、医療ソーシャルワーカー等の専門職、さらに業務委託により受付、警備、清掃等を行っております。

このほか、当院では、医師が診療に専念できる体制を広げるため、医師事務作業補助者(医療秘書)による診断書、証明書、情報提供書等の書類作成、症例検討のための資料作成、学会関係のデータ登録や調査の実施等、医師の業務を補助する体制を整えてきました。

今後も良質な医療の提供ができる医療環境の実現につながる取り組みを行って参ります。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター-2014

指標番号	指標名称	H23	H24	H25	算出単位	分子 / 分母および備考
事務 1	事務局に関連する各種認定資格取得者率 (%)	0.15	0.60	0.54	年度	分子：事務局に関連する各種認定資格取得者数 分母：事務局所属の全職員数(詳細は下記) 備考：特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する。(H23 年度は 18/43 人、H24 年度は 29/49 人、H25 年度は 27/50 人)
	各種資格取得人数内訳					H23 H24 H25
	診療情報管理士					5 10 9
	医療情報技師					2 5 4
	社会福祉士					7 9 9
	精神保健福祉士					4 5 5
事務 2	医師事務作業補助者(医療秘書)	9	12	17	年度	分子：- 分母：- 備考：事務的業務を補助することにより、医師が診療に専念でき、医療の質が向上する。



当院での FCC の一場面
「カンガルーケア」
のようす

「ファミリーセンタードケア」とは…

あまり聞きなれないことばですが、家族が中心となって、赤ちゃんにかかわることの大切さを考えるケアのことをいいます。最近、新生児集中治療室で注目されてきています。

NICUでは、命を救うこと、後遺症を極力減らすことが最も大切なこととして、日々の診療を行っています。そこから一歩進んで、入院中の赤ちゃんが少しでも家族らしくあるためにはどうしたらいいのか、できることはないだろうか、と考えています。今回は、そういった取り組みの中から、ファミリーセンタードケアについてご紹介いたします。



私たちは、『ファミリーセンタードケア』に取り組んでいます！

FCCの理念

Family-Centered Care (以下 FCC) の理念は、「患者・家族と専門職・ケアの提供者との平等で有益なパートナーシップに基づく、ヘルスケアの計画・提供・評価の方法である」とされています。NICUにおいてFCCは、最近様々な取り組みや活動がされています。これには、医療者が子どもの最善を家族と共に考えるパートナーであること、子どもと家族が中心になれる関わりや関係づくり、環境づくりなどがあります。

子どもと家族が中心になれる関わり

NICUでは、早産や病気をもった新生児が入院しています。治療が優先されることもあり、それは大切なことです。治療を受けている子どもが安心できる、リラックスできる方法があると知れば、家族は子どもにしてあげたいと思うのではないのでしょうか。子どもにどういったニーズがあるかサインをみながら読み取り、その情報を共有し、一緒に考えケアしていくことで子どもへの理解が深まることに繋がっていきます。また、子どものことが理解できると、家族は親としての自信がもてるようになり、また、愛着が増すようになると言われています。

FCCで大切なことは家族と医療者は平等なパートナーということです。NICUではマニュアルや病棟の決まりごとなどがあり、スタッフが中心となったケアが行われることもあります。そのような中で、子どもと家族にとって良いことは何か医療者が考える事も必要です。また、家族が行うケアを「できている」や「できていない」という基準で評価するのではなく、家族が持っている力を発揮できる、役割を果たすことができるなどの関わりが、子どもと家族が中心になれることに繋がっていくと思っています。子どもと家族が過ごしやすいNICUであればいいな、と思っています。

ちょっとしたことからFCC

家族が入院中の子どものために準備した洋服を持参する、メリーを持ってくるなど、家族が子どもに合うものを選ぶことを通して、親としての役割を発揮することができます。また、家庭を感じられるような、過ごしやすい環境に近づきます。家族にどんな希望があるのか、それは実現可能であるかなど、医療者として共に考えながら、思いに寄り添えることができればと思っています。

兄弟面会

NICUに入院となった新生児は状態により長期入院となる場合があります。そのような場合は、家族(兄弟や祖父母)の面会ができるよう対応をしています。現状では、長期入院や状態がよくない赤ちゃんに、家族の希望を取り入れながら兄弟面会を実施しています。状況によって、日時や人数などを制限しているので、いつでも、誰もが面会できる環境ではありませんが、家族が子どもに会いたい気持ちや何かしたい気持ちを尊重して、家族の力が引き出せるような関わりを大切にしています。

うちのFCC

日本産褥期・新生児医学学術集会の「こどもかぞくまんなか」のブースで「明日から始められる、アイデアポスター展」があり「うちのFCC」というテーマでのポスターを展示しました。今できることを、ちょっとしたことでも「うちのFCC」を共有しながら積み重ねていくことで、ファミリーセンタードケアが広がっていくのではないかと考えています。

【文責】
高知医療センターNICU
山本 晃子

「こどもかぞくまんなか」の
齋藤さんと一緒に。



● こどもかぞくまんなか HP
<http://kodomokazokumannaka.wix.com/home>



医療法人 敬善会 前田メディカルクリニック

〒781-4212
 高知県香美市香北町美良布 1516-3
 TEL : 0887-57-3811
 FAX : 0887-59-2003
 HP : <http://www.maeda-mc.com/>

(診療科) 内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・形成外科・小児科・救命救急科(救急指定診療所)・在宅療養支援診療所・アンチエイジング(美容)



診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
6:30 ~ 8:00	/	●	/	●	/	●	/
9:00 ~ 12:30	●	●	●	●	●	●	/
15:00 ~ 17:00	●	●	●	/	●	/	/
18:30 ~ 20:00	●	/	●	/	●	/	/

(休診日: 木曜午後、土曜日午後、日曜祝日)

医療法人 敬善会 前田メディカルクリニックは、平成 17 年 5 月に開院しました。開院より、少しでも地域の皆様のお役に立ちたいという願いから、早朝診療や夜間診療といった時間枠の拡大や、年中無休・24時間受付体制の確保を行ってまいりました。

また、手術室も備え、従来は遠方の病院まで行かなくては受けられなかった手術も、可能な範囲で対応できるよう取り組んでいます。

(前: 前田メディカルクリニック、高: 高知医療センター)

高: 貴院が現在力を入れていることを具体的にお聞かせください。

前: 開院当初より、救急診療・在宅診療・手術を3本柱として、外来診療および入院治療を行ってきました。特に外傷は、田舎にしては多く、毎年約 200 例以上の処置を行っています。

救急も年間 60 例程あり、美良布以東の CPA はほとんど当院で対応しています。救急患者を受け入れるため CT も設置しており、レスピレータも4台用意しています。手術においては、大腿骨頸部骨折、膝、人工関節、大腸癌、胃癌、胆石症、ヘルニア、下肢静脈瘤等の手術を実施しました。

在宅は、現在約 40 名程の患者さんがおり、午前と午後の外来診療の間に、ほぼ毎日、往診を行っています。

外科・内科・小児科・整形外科・形成外科・リハビリテーション科以外にも、禁煙外来指定医療機関の指定を受け禁煙外来も行っています。また、CT を用いた肥満検査や、アンチエイジング等にも取り組んでおります。

高: 地域との連携や他医療機関との連携について貴院での取り組みなどお聞かせください。

前: 在宅での看取りを希望される場合は、訪問看護ステーションと連携し訪問診療を行っています。

高: 今後、貴院が目指されていくことなどをお聞かせください。

前: 難しいかもしれませんが、色々な専門外来において総合病院的な総合診療所にできればいいなと思っています。

高: 最後に高知医療センターとの連携についていかがですか?

前: 積極的に連携を行っていきたく考えています。また、貴院を退院される在宅の患者さんがおいででしたら、ご紹介をよろしくお願い申し上げます。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。



前田 敬文院長(左)とスタッフのみなさま

月	日	曜	高知医療センター イベント情報 11月～			
11月	7	金	第7回 みんなで緩和ケアを考える会 (事前申込要・参加費要)			
			内容	「がん患者さんとご家族への心のケア」	場所	高新文化ホール(高知新聞放送会館東館7階)
			講師	埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科 教授 大西 秀樹 氏	時間	18:45 ~ 20:00
			対象	医療・福祉・保健関係者など※先着200名・参加費500円	お問い合わせ:高知医療センター・緩和ケア内科 原 一平 TEL:088(837)3000(代)	
	8	土	第35回 地域医療連携研修会 (参加費不要・事前申込不要)			
			内容	講演1.「最新の高血圧治療」 講演2.「上手な塩分制限で血圧管理」	場所	高知医療センター2F くらしおホール
			講師	高知医療センター 循環器病センター長 山本 克人 氏 / 高知医療センター 管理栄養士 森本 智代 氏	時間	14:00 ~ 15:40
	12	水	高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要)			
			研修名	「褥瘡予防のケア」	場所	高知医療センター 1F 研修室 2・3
			講師	皮膚排泄ケア認定看護師 竹崎 陽子 氏	時間	17:30 ~ 18:30
15	土	第8回 高知医療センター 学術集会 (事前申込不要・参加費無料)				
		内容	演題発表13題	場所	高知医療センター2F くらしおホール	
		講師		時間	14:00~	対象
16	日	高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要※定員に達しました)				
		研修名	「咀嚼・摂食・嚥下のリハビリと歯肉・頬部のマッサージ」	場所	高知医療センター 1F 研修室 2・3	
		講師	摂食・嚥下障害看護認定看護師 菊川 智恵 氏	時間	13:00 ~ 16:00	主催:高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX:088(837)6766
16	日	高新・高知医療センターがんセミナー・2014 (参加費要、事前申込要)				
		内容	「胃がんの現状と内視鏡治療」	場所	高新文化教室(RKC高知放送南館3階 37号室)	
		講師	高知医療センター 消化器内科 医長 大西 知子 氏	時間	10:30 ~ 12:00	対象
19	水	高知医療センター 看護局集合研修 他施設公開研修プログラム (事前申込要)				
		研修名	「認知症患者の看護」	場所	高知医療センター 1F 研修室 1・2	
		講師	精神看護専門看護師 福田 亜紀 氏	時間	17:30 ~ 19:00	主催:高知医療センター・看護局 教育担当 申込先 FAX:088(837)6766
25	火	平成26年度 第2回 救命救急センターセミナー (参加費不要・事前申込不要)				
		内容	「サンダーバード作戦」	場所	高知医療センター2F くらしおホール	
		講師	八戸市立市民病院 救命救急センター長 今 明秀 氏	時間	18:00~19:30	対象
お問い合わせ:高知医療センター・経営企画課 088(837)3000(代)						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

「にじ」第109号をお届けします。今月号では、遅くなりましたがH25年(度)の本院の「医療の質指標」のうち、看護局、薬剤局、医療技術局、栄養局、事務局の5局が自ら掲げている指標をまとめて見ていただきます。指標はそれぞれ目的を持ったものですので、院内でのチーム医療を担う仲間として、職員同士、お互いにその推移を注目しているものです。また本年から「医療の質指標」の表題を「クオリティー・インディケーター(QI)/クリニカル・インディケーター(CI)」といたしました。これは、これまで指標をしてきたもののうち、業績として年報扱いにした方がいい、というものは、そちらでまとめることにし、「質の指標」にできるだけ絞って見ていただきたい、というものです。ここで切り離れた「業績」の部分は本院ホームページの中で別の形で見ていただくことを予定しています。よろしく願いいたします。(深田 順一)



平成26年11月1日発行
にじ 11月号(第109号)
毎月発行
編集者:深田 順一
発行者:武田 明雄
印刷:株式会社高陽堂印刷

発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp